

成果の説明書

(氏名) スルガリエヴァ・リヤイリヤ	(学部) 経済学部
1 重要事項 ➤ 研究（聞き取り調査と資料調査） 科学研究費助成事業（科研費）をもとにカザフスタン（アルマティ市と周辺の町村、シムケント市と周辺の村）に行き、カザフスタンの国民の対中認識について聞き取り調査を行った。また、カザフスタン国立図書館で「一帯一路」構想が発表された2013年から2017年までの資料を収集することができた。その一環として、以下の英文論文集が出版された。‘Perceptions and Views of Kazakhstan’s people on China and the Belt and Road Initiative’, <i>ISSCU Research Papers</i>, No.9, October 2023. <u>学会報告</u>： 2023年8月8日から10日までに開催された国際学会 ISA Asia-Pacific Region Conference 2023, Tokyo（ハイブリッド開催）では、「China’s growing influence in Central Asia through its Belt and Road Initiative」について報告した。 2023年11月10日から11日までに福岡で開催された日本国際政治学会2023年度研究大会において、「The China factor in Central Asia through its Belt and Road Initiative」について報告した。 2024年3月15日から17日までに開催された日本中央アジア学会大会（ハイブリッド開催）において、「カザフスタンのマルチベクトル外交政策：中国とロシアを中心に」について報告した。 ➤ 教育活動 ・演習については、授業時間外（合宿など）を学生と共に企画・実施した。また、卒業論文（7名）を指導した。 ・2023年4月に着任したばかりなので、授業の準備を行い、なるべく受講者にとっておもしろくて、インタラクティブな（例えば、グループ内でディスカッションし、発表するなどの）授業になるように努めた。 ➤ 社会貢献 ・ラジオ高崎「ラジオゼミナール」において自分の専門分野（カザフスタンと日本、中国との政治や経済関係）について出演した（2023年1月22日）	
2 その他の事項 ➤ 外部資金獲得状況・共同研究など ・科研費・若手（代表者）「一帯一路」構想が国民の対中国認識へもたらす影響：カザフスタンを事例に」 ・科研費・国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))（分担）「グローバルスケール・シフト：「一帯一路」がもたらす巨大社会変動と人々の生活変化」	
3 次年度以降の計画・抱負 ・研究については、カザフスタンの他の町での国民の対中認識に関する新たなデータを収集して論文としてまとめることや、昨年度からカザフスタン国立図書館で「一帯一路」構想に関する資料を引き続き収集し、論文としてまとめることを目指す。 ・教育については、2024年度の夏は海外フィールドワークを実施する予定である。	